

学校目標『元気いっぱい 自分から学び 共に高め合う西与賀っ子』の育成

西 にしよかっ子

令和 6年11月15日(金)
文責 校長 大石 文枝 第14号
☎ 0952-23-6300

㊦ここにあいさつする子 ㊧しっかり勉強する子 ㊨よろこんで働く子 ㊩からだをきたえる子 ㊪ながり学び合う子 ㊫ころをみがく子

■ 学力向上に向けて

本校の学力向上の取組の一つとして、子供たちの「なぜ」「知りたい」という素直な思い、素朴な知的好奇心を高めながら、対話が生まれるしかけを授業の中に組み込んでいます。対話的な学びを取り入れる理由は、自分もっている考えを広げたり深めたりするためです。そして、対話的な学びは、当然話す相手がありますから、相手を意識しながら話すことで、表現力を磨くこともその目的としています。つまり、思考力や表現力を育成するためです。これからの時代を生きていく子供たちには、特に求められる力です。そのため職員は、子供が知的好奇心を持ち続けて主体的な学びが継続できるように学習内容をどう組み立てていくか、どこで対話的な学びを組み込むかなど研修をしながら取り組んでいます。先日も6年2組で授業研究を行ったのですが、その中で思考力や表現力を育成するためには、「聴く力」の重要性が話題に上りました。話し手は、聴き手にしっかりと聴いてもらえることで表現したいという意欲が増していきます。また、聴き手も自分の考えと話し手の考えを比較しながら聴くことで、思考力や判断力が伸びていきます。大学の先生からも話す表現力だけでなく「聴く力」も大事にしていくべきであるとの指導助言がありました。

少し話は飛躍しますが、これまでの教職経験から「聴き上手な子供は、成績が伸びる」ということを感じます。その逆の授業中に落ち着かない態度で、話を聴かずに自分勝手な行動をする子供は学習に集中できませんので、学習がうまく定着しません。成績も伸びません。では、成績もアップする上手な聴き手を育てるにはどうしたらいいのでしょうか？方法は、いろいろありますが、まずは、学校でも家庭でも、大人がモデルとして聴き上手になって子供の話に耳を傾けて聴くことが必要でしょう。そして、子供には聴いたり話したりすることの心地よさや楽しさを体感させることで、確かな学力に導いていければと思います。

■ 図書館祭り「もみじまつり」の開催

10月28日(月)から11月1日(金)まで、図書館で「もみじまつり」を行いました。この期間は、図書委員さん企画による「私の推し本、総選挙」「低中高学年別クイズ」「ラッキーブック」の3つのイベントがありました。早速、「推し本、総選挙」の結果は、図書館便りと放送で公表されました。やはり、子供に人気の本が選出されていました。また、「ラッキーブック」は、前もって図書委員さんがラッキーブックを30冊選定してパソコンに登録していました。どの本がラッキーブックなのかは、借りる時には分かりません。しかし、返却したときにパソコンに「ラッキー」と表示されれば、「ラッキーブック」で大当たりです。返すときに、幸運が舞い込んできて、限定のしおりまでもらえて、なんとラッキーなことでしょう。更に、先生や図書委員の「おすすめの本」のコーナーもありました。教室に行ったときに、1年生から「校長先生が紹介していた『おおはくちょうのそら』」を借りて、読んだよ。ちょっと悲しいお話だったね。」と感想まで話してくれました。これからもいろんな本に親しみ、想像の翼を広げて、心豊かになってほしいと願います。

各年別クイズの答え合わせ
をする図書委員さん



ドキドキ!ラッキー出るかな?

■ 1・2年生 芋掘り体験活動

11月6日(水)に1・2年生は「芋掘り」をしました。5月下旬に芋の苗植えをして、早5か月。収穫の時期を迎えました。今回も地域の皆様のお力をお借りしての芋掘りです。地域のみなさん、総勢10名。朝早くから学校に来て、作業がスムーズに進むようにとマルチシートを剥いだり蔓を切ったりしてくださっていました。そのような事前の準備をしてくださっていたおかげで、子供たちは芋掘りに専念できました。地域の方に周りの土をほぐしてもらい、少しやわらかくなった土の中には、たくさんの芋が隠れていました。子供たちは、芋の先っぽを見つけるやいなや、勢いよく掘り進めていきます。しばらくすると「やったあ！おいとれたよ」「見て見て！すごく大きい」「おいと重たいなあ！」「すごい！ひげみたいなのがいっぱい、ついてる」などと弾んだ声があちからもこっちからも聞こえてきました。1・2年生分を合わせると、大きな芋がごろごろ、一輪車4台分もとれました。今年は、豊作だったようです。たくさんのお芋の収穫に大満足の子供たちでした。ご家庭でどんな料理になったのでしょうか？

地域の皆様、朝早くからの芋掘りのお手伝い、本当にありがとうございました。



地域の方と協力して掘って



見て、大きいよ！



手元に大きな芋がどっさり！



地域の方にお礼を言います

■ 3・4年生 水中生物調査

11月8日(金)に3・4年生は、クリークの水中生物調査を行いました。今回ご協力いただいたのは、西与賀の「農地水」の会、佐賀大学農学部先生と学生、市の農村環境課、市の環境課の皆さんです。到着するとすでに、水槽の中にはエビやフナ、タナゴ、ヤゴなどの生き物がたくさん入っていました。前日から子供たちのために準備をしてくださっていたようです。子供たちは、西与賀のクリークには日本全国では姿を消しつつある希少な生き物もいることを聞いて、身近にあるクリークに貴重な生き物がいる事実には驚いていました。その話を聞いた後だったので、水槽の中や生き物を捕獲する実演を食い入るように見つめていました。小さいエビがたくさんいて「エビが会議している」とか「エビと目が合ったよ」とほほえましいことを言う声も聞こえてきました。この調査体験をして、いつまでもこの生き物たちが住める西与賀のクリークを守っていきたいという思いをもったのではないかと思います。

子供たちの体験活動を充実させようと、いつも温かいまなざしでご協力いただく地域の皆様に感謝するばかりです。



水槽に生き物がいっぱい



実際に生き物が捕れて

★嬉しいお電話★子供のおばあさまからうれしい連絡をもらいました！

孫が水筒を忘れたので、今日、届けようと体育館付近を歩いていたところ、一つ上の学年の男の子が「ぼく、〇〇くんのこと、知っているから届けましょうか？」と自分から言ってくれました。名前は分からないのですが、とても嬉しかったので、お電話しました、ということでした。こういう子供たちの優しさを認めてくださるおばあさまの「ありがとう」言葉、学校としてもとてもありがたく思います。実は、おばあさまは、最後に「うちの孫もそういう子に育ててほしいと思います」と付け加えられました。同感です。自分のことだけでなく、周りの人のことにも配慮した行動がとれる人になってほしいと私も思います。